

経済・金融
フラッシュブラジル GDP(2025 年 1-3 月期)
ー農業が成長をけん引し前期比 1.4%

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

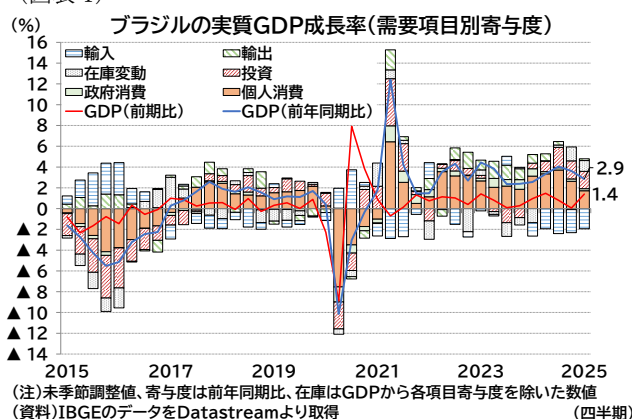
1. 結果の概要:前期比 1.4%に加速、前年比は 2.9%

5 月 30 日、ブラジル地理統計院 (IBGE) は国内総生産 (GDP) を公表し、結果は以下の通りとなった。

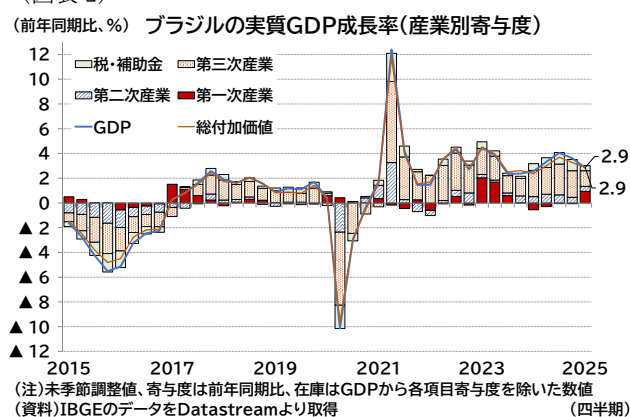
【実質 GDP 成長率 (2025 年 1-3 月期)】

- ・前年同期比伸び率 (未季節調整値) は 2.9%、市場予想¹ (3.1%) を下回り、前期 (3.6%) から低下した (図表 1・2)。
- ・前期比伸び率 (季節調整値) は 1.4%、予想 (1.5%) を下回ったが、前期 (0.2%) から加速した。

(図表 1)



(図表 2)



2. 結果の詳細:農業が成長をけん引

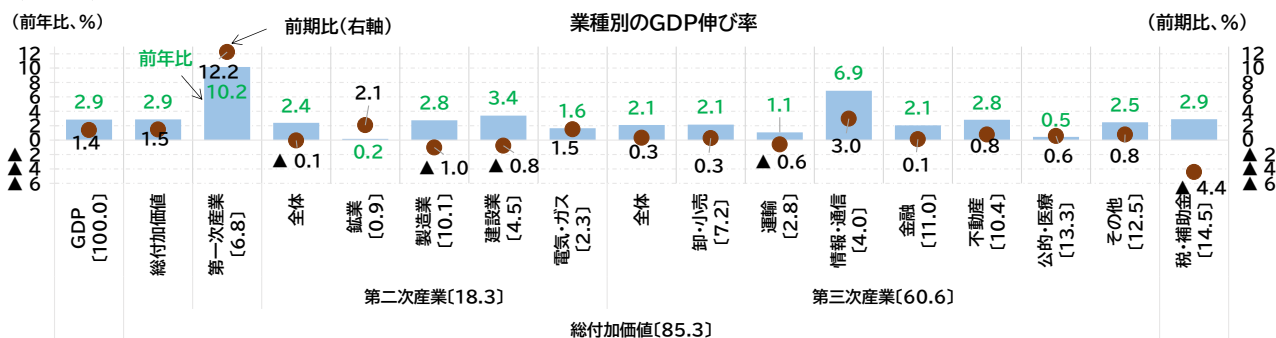
25 年 1-3 月期の実質 GDP 伸び率は前期比 1.4% (季節調整値、年率換算 5.7%) となり、前期 (前期比 0.1%、年率換算 0.2%) から大幅に加速した。コロナ禍前 (19 年 10-12 月期) 比では 12.6%だった (図表 4・5)。また、伸びのトレンドが掴みやすい前年比では 2.9%と、前期 (3.6%) から伸び率が低下した。ただし潜在成長率と見られる 2%台半ばを依然として上回っている。

成長率 (前期比) を需要項目別に見ると、個人消費が 1.0% (前期: ▲0.9%)、政府消費が 0.1% (前期: 0.5%)、投資が 3.1% (前期: 0.7%)、輸出が 2.9% (前期: ▲1.2%)、輸入が 5.9% (前期: 0.7%) となった。個人消費がプラスに回復したほか、投資や輸出も大きく伸びた。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

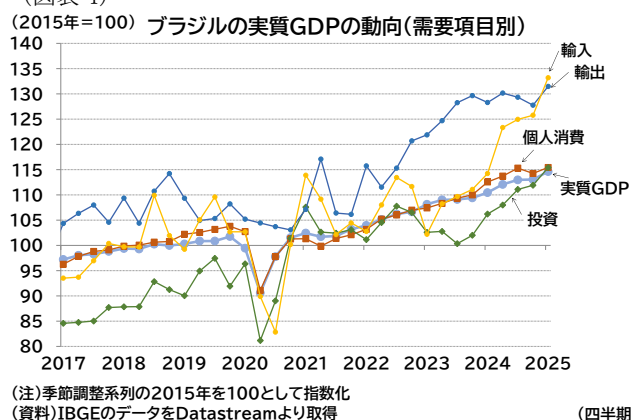
コロナ禍前との対比では、個人消費が 11.2%、政府消費が 9.4%、投資が 25.6%、輸出が 21.5%、輸入が 29.7%だった（図表 4）。

（図表 3）



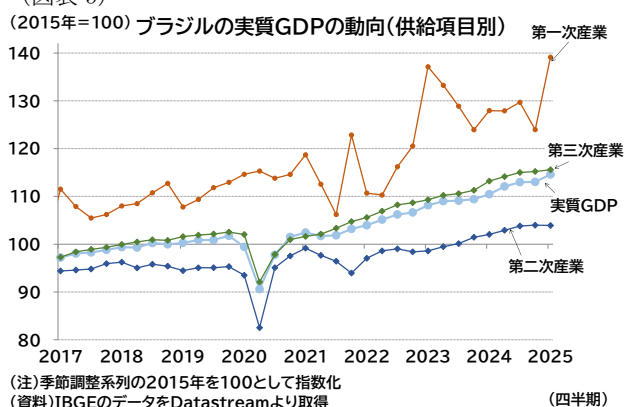
（注）カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値（データラベル）は黒が前期比、緑が前年比の数値
（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（図表 4）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化
（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（図表 5）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化
（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

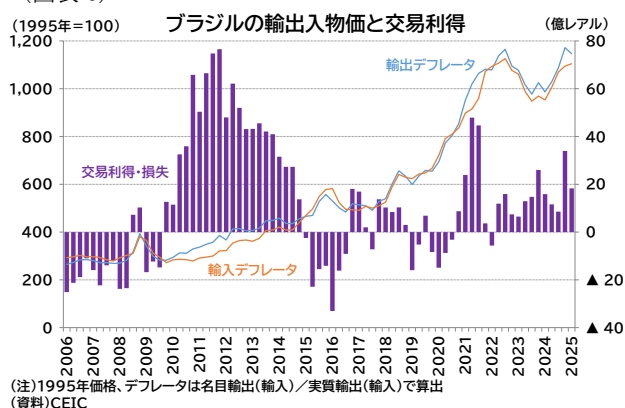
産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると（図表 3・5）、第一次産業は前期比 12.2%（前期：▲4.4%）、第二次産業は同▲0.1%（前期：0.2%）、第三次産業は同 0.3%（前期：0.2%）となり、特に第一次産業が大豆の豊作にけん引する形で大幅に伸びた。一方、第二次産業の低迷業種は利上げによって停滞感が強まったと見られる。

より細かい業種では、第二次産業の製造業（前期比▲1.0%）、建設業（同▲0.8%）のマイナスが目立つ一方、第二次産業の鉱業（同 2.1%）、電気・ガス（同 1.5%）、第三次産業の情報・通信（同 3.0%）が高めの伸びを記録している（図表 3）。

1-3 月期の名目成長率は前年同期比 9.7%（前期：7.5%）に上昇した。その結果、名目と実質成長率の差（デフレータに相当）が 6.8%（前期：3.9%）と大幅に加速した。なお、消費者物価指数（IPCA）の上昇率は 1 月（4.6%）を底に 2 月以降は再び 5% 台まで加速、中銀目標（3±1.5%）の上限は 4 月まで 7 か月連続で超過している。ブラジル中銀は直近 5 月会合まで 6 会合連続となる利上げを実施している（合計 4.25%ポイント引き上げ）。

輸出デフレータと輸入デフレータはいずれも前年比で伸び率が拡大するなか、輸入物価の伸びが輸入物価を大きく上回ったため、交易利得は前期に比べて縮小した（図表 6）。

（図表 6）



（注）1995年価格、デフレータは名目輸出（輸入）/実質輸出（輸入）で算出
（資料）CEIC

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。